

学会記事

2007年度 第9回理事会 議事録

2008年2月29日

日本地質学会 会長 木村 学

期 日：2008年2月9日(土)

12:00~16:30

場 所：地質学会事務局

出席者：佃副会長、渡部常務理事・Wallis・上砂・狩野・公文・斎藤・中山・久田・藤本・向山・宮下・矢島 各理事、橋辺(事務局)

欠席者：木村会長、伊藤副会長、天野副常務理事・倉本

* 成立員数(12/17)に対し、出席者13名、委任状4名、欠席者4名で、理事会は成立。

報 告

1. 運営財政部会(部会長-上砂, 中山, 向山, 倉本)

総務委員会(委員長-上砂)

・本学術会議「総合工学委員会工学基盤における知の統合分科会：「科学研究費補助金システム改革検討ワーキンググループ」よりアンケートへの協力依頼があった。アンケートの内容が、今後の科研費にも大きく反映するものと予想されることから、各専門部会長の意見も参考にアンケートに答えることとし、部会長にその要請をした。まとめは倉本理事がおこなう。メ切2月22日。

・第2回国際地学オリンピック国内選抜実施・募集要項が発表された。Webサイト、News誌2号に掲載。

・地球化学研究協会より「三宅賞」および「奨励賞」募集案内→Webサイト、News誌2号に掲載。

・発明協会より、平成20年度地方発明表彰募集案内があった。Webサイト、News誌2号に掲載。

会員関係(担当理事-中山)

1) 入会の承認

(院生割引1名) 横山正敬

(準2名) 泉 健太, 三谷明日華

2) 12月末日会員数

賛助34, 名誉74, 正4,426(うち院273), 準39, 合計4,573(前年同期比 -60)

地球惑星科学連合(久田連絡委員)

1) 国際地学オリンピック日本委員会準備委員会(久田)

・3月に国際地学オリンピック日本委員会の設立

・委員会組織、平成20・21年度予算案、寄

付活動について

JST予算申請をH20, 21に予定しているが、人件費を支援団体から計200万円程度必要とすること、本年度3月中の寄付受け入れを予定しているが、地質学会には10-50万円規模を希望していること等が紹介され、学会としては普及事業の一環と位置づけて、年度末ないし来年度予算で寄付を行うことなど今後の協賛についても検討することとし、対応は会計担当理事とした。

・年会での中高生発表会等と合わせて、地質学会では来年度事業で両者を普及事業の柱として実施することを再確認した。

・第2回国際地学オリンピックの国内選抜実施・募集要綱を発表した。

会計関係(担当理事-向山)

・07年度決算案

・08年度予算に関連

広報委員会(担当理事-倉本)

インターネット運営小委員会(委員長-坂口有人)

・会員情報開示のためのシステムの調整を業者間で行っている。

・秋田大会の登録料等のWeb支払いは本年度も同様に実施予定

2. 学術研究部会(部会長-公文)

国際交流委員会(公文-国際特任理事)

・タイ地質学会から会長招待の件は、久田理事が代理で出席することとなった。

・国際交流の記念品として、盾を作成することとし、今回の久田理事出張の際にタイ地質学会に寄贈することとした。3/18までに完成予定で、文面を佃副会長作成、デザイン等の助言をウォリス理事が行う。

3. 編集出版部会(部会長-狩野, 久田, 宮下, Wallis)

地質学雑誌編集委員会(委員長-狩野 副委員長-久田, 宮下=企画担当)

・今月の編集状況は以下の通りです(2月8日現在)。

114-2月号: 論説3・短報2・口絵1(p. 校正中・2/18校了予定)

114-3月号: (入稿準備中)

114-4月号: 教育関連の特集号, 5編30P

に一般原稿を加える予定

・2008年度度投稿論文総数14編 [論説7(和文7), 総説6(和文6) 討論1] 投稿数昨年比 +4 査読中 48編

受理済み 14編(うち教育特集4, 短報2, ノート1, 口絵0)

・表紙デザインの公募をWebサイトなら

びに1月号に掲載した。メ切は3月末。

企画部会報告(宮下)

・特集号「最終間氷期の環境変動-日本列島陸域と周辺海域の統合を目指して-(世話人: 公文富士夫ほか) 概算74ページ」投稿済み・順次査読開始

・特集号「プレート沈み込み帯と地震(世話人: 廣野哲朗ほか) 概算85ページ」投稿中(5/9件投稿済み)

・「報告」の投稿は数編受付けて査読中。解釈等の余地をどこまで認めるかについて編集委員会内で議論中。結果はニュース誌等でお知らせする。

Island arc編集委員会(担当理事-Wallis, 事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

1) 2007年出版結果

年間606p.契約に基づき2008年から30p前借り。

2) 井龍・前川新体制による編集が始まった。

08年新規投稿5編。

3) 2008年編集状況

2008年17巻の年間契約ページ数は620p(07前借り)30pの件は要確認)

1号 Pictorial 1編, 一般10編, 182p.WEB公開済み

2号 Pictorial 1編, 一般6編, 95p見込み。Online Early用に1月末日入稿。

2月中にもう1編加えたい。

4) 特集

板谷特集: GE板谷・Sajeev・Wallis

6編受付済み, うち受理2編, うち1編はWEB公開済み。掲載は17-3号か?

久田特集: GE久田・Yumul(IGCP 516) 全24編受付済み, うち9編受理。17-4号・18-1号分割掲載を予定。

HKT(ヒマラヤ)特集: GE Wallis・Aitchison

全8編受付済み, うち1編受理。掲載は18-3号を予定。08年集会の特集の打診も来ている。

寺林特集: GE寺林 6編予定

Ernst特集打診中

企画出版委員会(担当理事-藤本)

・リーフレット「屋久島」作成については、2月中に編集打ち合わせの予定で順調に推移

・「地質環境」の出版趣旨の説明を、高橋氏から3月8日11:30から理事会にご説明いただくこととした。

4. 普及教育事業部会(部会長-矢島, 藤本) とくになし

5. その他

支部長連絡会議（担当理事-伊藤）

- ・支部に対し、ジオパークの設立推進ならびに地質の日の行事企画等について要請をした。
- （以下、ジオパーク設立推進委員会参照）

ジオパーク設立推進委員会（担当理事、個委員長）

- ・支部に対しジオパーク設立について協力依頼を要請。また、2月15日メ切でジオパーク支援委員会委員の推薦を依頼。現在中部支部から推薦有。委員長は高木秀雄会員で、3月に設立予定。
- ・日本地理学会、日本第四紀学会、日本地震学会、火山学会に対し、日本ジオパーク委員会（仮称）への参加を依頼
- ・国内のジオパーク推進体制や仕組みが複雑なので、容易な説明資料を作成し、学会事務局等での問い合わせ対応にも利用することとした。

6. 選挙管理委員会（委員長-加藤潔）

- ・改選理事選挙および補充理事選挙が終了し、会長に報告した。これらの結果についてはWebおよびNews誌2月号に掲載する。

【以下、理事会および評議員会の下の委員会】

名誉会員推薦委員会（伊藤副会長）

- ・2月15日メ切で名誉会員候補者の推薦を依頼中。現在までに2名の推薦があった。

法務委員会（担当理事：委員長-上砂）

- ・各賞検討委員会からの要請で、顕彰選考の際の利益相反規定を検討し、暫定案を送付した。本年度はこれに基づいて実施していただく。内容は各省検討委員会等から答申と共に報告いただく事になるが、①原則として意見表明や投票からの辞退を委員の自己宣告とし、②選考対象論文等の共著者、謝辞対象者、親族、指導者は利益相反の対象候補とした。現職での上司関係者を含めるかどうかは、今後検討する。

7. 地質の日委員会（藤本委員）

- ・支部に対し地質の日の行事について協力依頼を要請。
- ・日本記念日協会に「地質の日」の登録申請を行い受理され、直ちに記念日協会のWebに掲載された。
- ・地質の日（5/10）に活動は限定しないことが確認された。前後を含めた数週間を企画期間として考える。
- ・2/9の日経新聞に矢内桂三会員の記事が掲載されたように、地質の日一般講演の候補者・講演内容を検討するべきとの意見があった。

○審議事項

1. 本年度選挙実施を経た今後の改善点の検討について

- ・加藤選挙管理委員長への謝辞とご意見コメント等のうかがいを行い、現行選挙手続き等の改善点を聞き取る。担当は常務理事
- ・役員選挙システムの改善点を理事会としてとりまとめる。担当は伊藤副会長
- ・3月理事会までに上記を提案としてとりまとめ、4月評議員会で評議いただく。

2. 各賞選考への理事会推薦委員会の本年度運用について

- ・各賞検討委員会（狩野委員長）より、理事会推薦の手続きにおいて推薦委員会委員の推薦文書が直接各賞選考委員会に提出された点、事前の理事会での対応がなされていない旨の連絡があった。理事会では以下の通りの経緯へ対応を行い、原因ならびに今後の方針を議論しとりまとめた。これは、各賞選考委員会ならびに各省検討委員会、当該推薦委員にご報告することとした。
- ・本年度の理事会推薦委員会は、立ち上げの遅れから理事会でのとりまとめ期間が無かったため、推薦文は直接委員会に送付したが、推薦委員への事前の説明や、推薦母体である理事会としての推薦文書の確認がなされていなかった。
- ・このため、本来理事会が対応すべき問い合わせ等が推薦委員会委員の方に直接行われ、推薦委員委に多大なご迷惑を

おかけした。

- ・当該推薦委員と各賞検討委員会には上記に対するお詫びを行い、追加作業は理事会経由で行った。
- ・理事会推薦にあたっての推薦委員会設置目的について検討し、理事会からの推薦が無い現状で推薦委員会からの推薦は得られた本年度の実績に鑑みて、引き続き推薦委員会にご協力をお願いするが、事前の十分な委員へのご説明と時間の猶予を確保し、選考委員会への提出は理事会で事前にとりまとめて行うこととした。
- ・以上の点を、会長名で関係各位にご報告する。

3. 学会活動における政治団体・組織との関係について

- ・学会の広報等で、特定の政治団体・組織に係るお知らせ等をどのように扱うか、一定のガイドラインが必要と判断した。
- ・国の政策等への反映を目指した学会活動は、政治活動と承知する。
- ・一方、特定の政治団体・組織等からは中立の立場を厳守する。
- ・従って、「特定の政党・政治団体等への対応はしない」事を原則とする。
- ・3月理事会にガイドライン案を提出し、法務委員会の検討をいただいた上で評議員会に報告する予定とした。

4. 法務委員会での会員除名申し立てへの対応結果の扱いについて

- ・今後法務委員会から当該検討結果が報告された際に、評議員会から総会にかける手続きが規定されていない。
- ・今後の取り扱いについて、理事会案を作成し、3月理事会で審議することとした。

5. 秋田大会の準備について

- ・行事委員会より、秋田大会では、これまで、鉱物科学会側は同時開催と言ってきたが、近頃、相手行事委員長の工藤氏から斎藤に連絡があり、秋田の準備委員会の意向もあって、共同開催に近い同時開催で行いたいと表明があったと報告された。